

令和6年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会
(みつめなおして、よりよく①)
開催報告

- 1 趣旨** コミュニティ・スクールおよび地域学校協働活動を導入・推進する市町・学校の事業担当者や地域学校協働活動推進員等を対象に、今年度の事業における「みつめなおして、よりよく」の趣旨や運営上の留意点などを説明するとともに、具体的な体制整備に向けた手立てを学ぶ機会とする。また、コミュニティ・スクール推進における質的向上、ならびに地域学校協働活動との一体的な推進の方策について理解を深め、普及につなげる。
- 2 主催** 滋賀県教育委員会
- 3 対象**
- ・各市町「学校を核とした強化プラン」担当者（導入予定の市町も含む）
 - ・各校園学校運営協議会委員
 - ・地域学校協働活動関係者（推進員、学習支援員、ボランティア等）
 - ・県および市町の社会教育委員
 - ・社会教育士
- 4 日時** 令和6年6月4日（火）13:30～16:30
- 5 会場** 滋賀県庁東館7階 大会議室（大津市京町四丁目1番1号）
※対面での参加を基本とするが、オンライン参加も可
- 6 内容**
- (1) 開会行事・行政説明（13:30～）
 - (2) 講演（13:40～）
演題：「コミュニティ・スクールの導入から運営まで ～みつめなおして、よりよく～」
講師：ひいらぎ子ども園保育士・京都教育大学非常勤講師・大阪成蹊大学大学院非常勤講師
元文部科学省CSマイスター
西 孝一郎 氏
 - (3) 休憩（15:10～15:20）
 - (4) グループ討議（15:20～16:10）
 - (5) 全体交流（16:10～16:20）
 - (6) 閉会行事（16:20～）
- 7 参加者数** 54名（来場26名、オンライン28名）



8 研修会の概要

(講演)

西 孝一郎 氏より、『コミュニティ・スクールの導入から運営まで ～みつめなおして、よりよく～』と題して、コミュニティ・スクールの目的や学校支援ボランティアから地域学校協働活動へと発展させる際に「どんな子どもに育てたいのか」を共有することなど、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けた方策について御教示いただいた。

「コミュニティ・スクールとは、何のためにするのか？」を出発点として、「子どものために」学校・社会を「みんなで」つくり、教職員と保護者・地域住民が「つながる」ことが大切である。

両者の一体的推進をすすめるにあたり、大切なことは学校・地域で子どもたちをどう育てたいのかを念頭に置くことである。学校運営協議会での熟議では、「子どもを育てる」ためのポジティブな視点でのテーマ設定や発想を前面に出し、当事者意識を持って、学校・子どもをめぐる教育課題にみんなで取り組めるように進めたい。具体的な活動例や組織運営など、参加者がこれからの活動に生かすためのアイデアを数多く御提示いただいた。

(グループ討議)

『〇〇な子どもを育てるために』の〇〇にあてはまる言葉やキーワードを考え、ポジティブに子どもや学校・地域について考える時間とした。グループ討議で出た意見を書き込んだり、付箋を貼り付けたりして、それぞれの立場からの意見や考えを活発に交流していた。全体交流では各グループで話し合ったことを発表していただいた。講師の西氏から、前向きなテーマで子どものために何ができるかを話す、熟議の雰囲気が出ていてとても充実していたと講評いただき、多くの学校関係者が「思いやりのある」「心優しい」子どもに育てたいと願っているお話もしていただいた。

9 参加者のアンケートより

- ・コミュニティ・スクールの方向性の確認ができ、反省点や見直しにもつながった。「承認」ひとつにしても、何気なくしていることを具体的に教えていただき、参考になった。
- ・何のためにコミュニティ・スクールとして取り組むのか、そのためにどんな仕組みや運営が大切なのかを学ぶことができた。一方、今の子どもたちの20年後、30年後に、コミュニティ・スクールがどんな風に根づき、発展させていくのかというビジョンをもつことも必要だと思った。
- ・他市町の様々な立場の方と交流することができてよかった。話に力が入りすぎてまとめる時間が少なくなったが、この研修をとおして「続けることのできるコミュニティ・スクールの仕組みづくり」が大切だと感じた。今後、よりよいコミュニティ・スクール、学校運営協議会となるよう、他市町の取組も参考にして進めていきたい。
- ・学校支援ボランティアから地域学校協働活動となった違いについて理解できた。コミュニティ・スクールがすでに自市の事業の一つとして行われている。活動内容や予算の使い方等、再構成することで、今後よりよい活動にしていきたい。

